



障害のある人も標準的ながん治療を受けることができるために

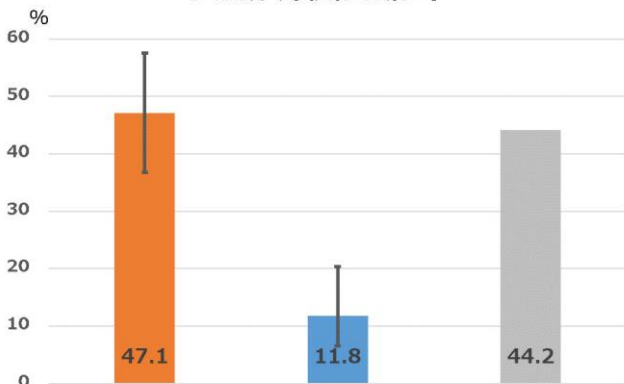
医学部 教授 稲垣 正俊

障害を抱えて地域で生活している人たちは、様々な格差に遭遇し、困難を抱えています。例えば、精神障害を抱えている人たちは、障害のない人たちと比べて、寿命が10年以上短いこと、がん検診を受けることができず、がんと診断されたときには既に進行してしまっていること、適切な治療を受けることができていないことが、その理由としてわかっています。

現在、精神障害を抱える人たちも、がん検診を受けることができるようにする研究、取り組みを島根県を始めとした複数の地域で実施しています。これにより、早期にがんが発見でき、より、根治的な治療を実施することが可能となります。また、がんと診断された後も、標準的な抗がん治療を受けることができていない現状に対して、総合病院の精神科やがん治療専門医だけでなく、ソーシャルワーカー、心理士、看護師、そして地域の精神科病院/クリニックや訪問看護、介護福祉士らと協働した取り組みを目指して研究、実践を進めています。

医療者・福祉関係者だけでなく地域の皆様方のご協力とご理解をお願い申し上げます。

大腸がん検診受診率



本研究に参加した統合失調症患者さん

※2019年国民生活基礎調査に基づく
(国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」)

左図の説明

統合失調症患者さんは（青色）一般住民と比べて（灰色）がん検診受診率が低いですが、かかりつけ精神科病院の外来で、がん検診受診の重要性を説明し、受診の支援を行うと、一般住民と同程度の割合の人ががん検診に行く（橙色）ことが研究から判明した。

国立がん研究センターのホームページより

https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2021/0803/index.html